

議員活動報告

第12号 平成30年7月8日 発行

気仙沼市議会議員 熊谷 雅 裕

みやこや 熊谷まさひろ 事務所

気仙沼市高井21-5 0226-28-2938

平成30年6月定例議会が6月8日から始まり、当初は議案39件で6月22日に閉会予定でしたが、5件追加され、6月25日まで会期が延長されました。他に29年度会計の繰越し計算書の報告が8件。追加議案の中に副市長の選任に同意を求める議案があり、留守洋平氏が新しい副市長として7月1日付で就任しました。提出された19号議案に反対討論を行いました。賛成17票、反対6票で可決されました。

平成30年6月議会について

平成30年6月議会は、4月の改選後初の定例議会です。

改選された議員は5月に行われた2日間の臨時議会で所属する会派や、これからの4年間担当する常任委員会等が決定し、それを踏まえてこの定例議会に臨みます。

議長の開会宣言の後、菅原茂市長が施政方針演説をおこない、これからの4年間、3期目の市政運営に対する基本姿勢、目標と具体的政策を10項目にわたり所信表明しました。

当選後、初の6月定例議会では会派代表質問があり、1時間30分の時間が与えられます。

気仙沼市議会の会派は3つですので、18日に3名が代表質問しました。

一般質問は1時間で、無会派の5名とある会派の1名が19日と20日に行いました。

私は4年振りの一般質問を行いました。

私は新人議員として当選した、4年前の6月定例議会で一般質問を行いました。

その後も一般質問を試みましたが、議長裁定で発言の許可が出ず一般質問が出来ませんでした。この間の経緯は新聞報道や議員活動報告に書いていますので省きます。

そして今回の選挙で当選させていただきました。おかげさまで一般質問ができることとなり感謝しております。初当選の時の気持ちを忘れず、市民の声を市政に届けてまいります。

前回の議員活動報告で及川善賢議員の所属会派を間違い、「新風の会」とすべきところを「未来」としてしまいました。正しくは「気仙沼市監査委員 及川善賢(55) 新風の会」です。お詫びして訂正いたします。

平成30年6月定例議会 一般質問

無党派、熊谷雅裕です。通告に従い一般質問いたします。

前回から4年振りの質問となります。前回は巨大防潮堤建設に対しての質問が中心で、「巨大防潮堤建設は住民の合意を本当に得ているのか」「子孫に過大な債務を残す巨大防潮堤建設は止めるべき」「巨大防潮堤建設よりも避難路と住宅建設を優先すべき」そして「『巨大防潮堤は科学技術の発達により無用になる』と思うが、如何か」といった内容でした。

しかし残念ながら巨大防潮堤建設は震災後の3年間でほぼ確定しており、国・県・市はその計画をほとんど変えずに推し進めて、現在の惨状に至っています。 住民との話し合いで決定した魚町の防潮堤の高さに関しても、知事は間違いを認めながら建設を強行すると明言しています。国・県・市にとっては、被災した住民の生活再建よりも、住民の海への思いや生活環境よりも、巨額の税金を使う巨大防潮堤建設を優先し、とにかく計画通りに建設を押し進めることが一番大事なことのようです。

私は一般質問が出来なくなった後も議員活動報告を発行し、「海と生きる気仙沼が自然を破壊し、海を殺しても良いのか。」「巨大防潮堤工事は沿岸漁業に悪影響を及ぼしているのではないのか」「子供たちに美しい故郷を残すべき」等々訴えてきました。自然が破壊され、巨大防潮堤に囲まれたところに、子供たちは戻ってくるのでしょうか。50年後、100年後の災害に備えると言いますが、その時に果たして、そこに人は住んでいるのでしょうか。

国・県・市は巨額の税金を使い、美しく豊かな自然や、人々の生活環境を破壊しています。

「巨大防潮堤建設は歴史に残る愚策であり、未来に禍根を残す」と、私は思っています。

さて今回の一般質問は防潮堤ではなく、大島架橋に伴う質問が主になります。気仙沼大島大橋は来年3月に開通する予定ですが、大島には受け入れ態勢が全く整っておらず、問題が山積しています。その問題解決の具体策を単純に質問しますので、お答えも私が理解できますように、単純明快にお願いします。では質問に入ります。

質問項目を列記しますが、多くは具体的な返答がありません。

- ① 大島架橋の開通がせまっています。市には島民や議員から要望、提案が多々寄せられてきたはずですが、架橋建設決定から現在まで大島にどのような施策を実施してきたのでしょうか。具体例を尋ねます。
- ② 橋が開通すると、数千台から一万台もの車が大島に流入すると予測されています。駐車場とトイレの整備計画を尋ねます。
- ③ 島内道路は県道・市道ともに整備が遅れています。橋が開通する前に舗装整備される市道はどこか尋ねます。そして島民が求めていた県道拡幅舗装が確実に行われるのかを尋ねます。
- ④ 開通までに橋の両端に防犯カメラを設置し、島内の街路灯を整備しなおして安全対策を講ずることができるかを尋ねます。
- ⑤ 観光客が滞在宿泊するために小田の浜、田中浜の整備と島内遊歩道の整備が必要です。「みちのく潮風トレイル」のコース整備が橋の開通前にできるのかを尋ねます。
- ⑥ 架橋道路の完成が2年遅れることになり、ウエルカム・ターミナルの完成も遅れます。物販施設がない状態で開通すれば、観光客への販売機会を逃し大きな損失となります。この損失を少しでも食い止めるために仮設店舗を設置すべきと考えます。完成までの間、仮設店舗での営業ができるか尋ねます。
- ⑦ 交通渋滞、交通事故が多発すると考えられます。市はその対策をどのように考えているか具体策を尋ねます。
- ⑧ 盗難、密漁、ごみの不法投棄等への対策を市は、どのように考えているのかを尋ねます。
- ⑨ 市長の施政方針において、「定期的な水質調査により河川の水質を監視」とあります。ホタテの貝毒や磯焼けの原因を解明するための「海の水質調査」は行わないのか尋ねます。
- ⑩ 市税収入64億に対し人件費70億です。このことに対して市長はいかに思うか尋ねます。

① の質問に受け入れ施設の具体例は示されず、②に関しては駐車場が亀山中腹に60台、小田の浜70台、トイレは仮設で数か所の答えて、不十分な整備計画です。

③ 大島の市道は大向1号線、15号線、17号線の年度内完成が明言され、他の市道も今後いくつか整備する方針とのことで、引き続いて要請していきます。

④ 本土側に橋の管理カメラが付くが大島側はなし。警察へ交通カメラの設置を求める予定。

⑤ 遊歩道は環境省、県、市とそれぞれの管理区間があり縦割り行政の弊害がここにもある。

⑥ 民間モールの早期完成を目指すとのことだが、トイレの問題をかかえている。

⑦ ⑧については今後具体策を検討するとのこと、さらなる要請を続けます。

⑨ 貝毒、磯焼けの対策は沿岸漁業者にとって死活問題。さらなる原因究明と対策を。

⑩ この質問に対しては明快な答えはなく、行革にむけて今後も質問していく予定。

今回の質問は担当部署に具体的な対応を求めて行くためのもので、成果はこれからです。

巨大防潮堤建設に対する反対討論

今議会において、19号議案に対し私を含めて3名の反対討論がありました。議案に対して賛成、反対の意見を言うのが討論です。最初は反対の討論、次に賛成の討論、さらに反対討論、賛成討論と交互に発言していくのですが、今回は反対討論3名に対して賛成討論は1名でした。

反対討論は私と三浦友幸議員、熊谷一平議員が行い、及川善賢議員が賛成討論を行いました。討論のあと起立採決となりますが、賛成の議員は起立します。反対として座っていた議員は上記3名と今川悟議員、菅原雄治議員、村上伸子議員の3名で、この議案は賛成17、反対6で可決となりました

私は19号議案について反対の立場で討論いたします。

この議案は、二十一浜漁港海岸に造る巨大防潮堤建設の議案です。

国道45号の海側、海岸にそって高さ14.7mの直立防潮堤と特殊提を、26億7840万円もの予算をかけて建設するというのです。ここは中島海岸と一緒にくくりで、防潮堤の高さが14.7mに設定されました。しかし、中島海岸とは状況が全く異なります。

この防潮堤の防護対象は市道と家一軒です。国道45号は16.3mの高さで水が通り抜けるように造り直され、防護対象ではありません。防護対象となる1軒の家は、海岸から山側に1kmほど離れた所にあります。その家を守るために1kmも離れた海岸に、26億7840万円もの予算をかけて、高さ14.7mの巨大防潮堤を建設するというのです。この家は T.P + 9mの高さに建っていますから、この家を守るためなら、5.7mの高さで家の近く、あるいは家の周りに防潮堤を造れば、工事費用は数十分の1で済みます。そのように計画を変更すれば工事費用を縮小するだけでなく、海の景観が守れ、見通しの良い自然の海岸になり、子供たちも遊べます。南三陸町から気仙沼市に向かい国道45号を車で走ると蔵内海岸、二十一浜と海の見える美しい景観が続きます。それは気仙沼市にとって大事な観光資源です。美しい海と海岸をコンクリートの直立の壁で覆い隠す計画は見直すべきです。私は過大な建設計画を取り止め、計画を作り直し、改めて住民と協議するべきと考えます。

以上反対討論といたします。